Energia

報 道 資 料

平成18年6月4日
中国電力株式会社

島根原子力発電所2号機の発電開始について

島根原子力発電所2号機（沸騰水型，定格電気出力82万キロワット）は，平成18年2月28日から第13回定期検査を実施しておりますが，6月3日21時43分，発電を再開しました。（原子炉起動，6月1日10時00分）

今後，調整運転を行った後，経済産業省の最終検査を受け，定期検査を終了する予定です。

今回の定期検査期間中に実施した主な工事等の内容は以下のとおりです。

1.定期検査中に実施した主な工事

（1）燃料取替工事

原子炉内の全燃料（560体）のうち，124体を新燃料 （うち，回収ウラン燃料100体）に取替えた。

（2）制御棒駆動機構取替工事

制御棒駆動機構137体のうち，20体を同一設計の予備品に取替えた。

（3）出力領域計装取替工事

出力領域計装の検出器集合体31体のうち，5体を同一設計の検出器集合体に取替えた。

（4）逃がし安全弁取替工事

逃がし安全弁12台のうち，6台を同一設計の予備品に取替えた。

（5）制御棒取替工事

ボロンカーバイド粉末を制御材とする制御棒4本およびハフニウム棒を制御材とする長寿命化した制御棒4本をそれぞれ同一設計の制御棒に取替えた。

(6) 炉心シュラウド予防保全工事

炉心シュラウドの溶接の熱影響を受ける部分に対し，応力腐食割れの予防保全対策としてウォータージェットピーニング（以下「WJP」と略す。）を施工したが，高圧炉心スプレイ系スパージャノズル不具合のため，計画範囲のうち一部を実施して終了した。今後についてはWJPによる炉内機器への影響を再検証した上で，実施の可否を判断する。

また，第12回定期検査において炉心シュラウド中間胴溶接線近傍のひびを研削・除去した箇所の点検を実施し，異常のないことを確認した。

2.定期検査中に実施したトラブルの水平展開

(1) 原子炉浄化系配管他点検

原子炉浄化系配管溶接部7箇所及び残留熱除去系配管溶接部1箇所の点検を実施し，異常のないことを確認した。

（平成15年4月17日付け，平成15･04･09原院第4号「炉心シュラウド及び原子炉再循環系配管等のひび割れに関する点検について」および平成16年9月22日付け，平成16･09･08原院第1号「発電用原子力設備における破壊を引き起こすき裂その他の欠陥の解釈について」に基づく）

(2) 蒸気タービン設備他配管点検

蒸気タービンの配管等の676箇所について肉厚検査を実施し，異常のないことを確認した。

（平成17年2月18日付け，平成17･02･16原院第1号「原子力発電所の配管肉厚管理に対する要求事項について」および平成17年12月26日付け，平成17･12･20原院第11号「原子力発電所の定期事業者検査に関する解釈について」に基づく）

3.3号機建設関連工事

(1) 放水路・放水口切替工事

3号機増設に伴い，放水路・放水口の切替えを行った。

（2）開閉所二重母線化工事

3号機増設に伴い，開閉所の母線の二重化を行った。

4.定期検査中に発見した不具合

3月13日（月） 炉内目視点検において，高圧炉心スプレイ系の7つのスプレイノズルからデフレクタが外れていることを確認し，3月19日までに7個全ての回収を完了した。また，高圧炉心スプレイノズル18箇所（1箇所は約60度回転）において，廻り止め溶接が外れていることを確認した。

調査の結果，デフレクタの脱落は，建設時における高圧炉心スプレイ試験により生じたき裂が，前回定期検査で実施したWJPの振動によって進展し，破断したものと推定した。

また，ノズル廻り止め溶接外れは，前回定期検査で実施したWJPの振動によって生じ，ノズルの回転は，WJPの振動あるいは機器の接触等により生じたものと推定した。

健全なデフレクタについては，念のため次回定期検査時以降，計画的に目視確認および健全性確認を実施する。また，廻り止め溶接が外れたノズルについても，同様に次回定期検査時以降，計画的に廻り止め外れ面を目視確認する。

以上

関連リンク

- 島根原子力発電所2号機 第13回定期検査の状況
- 原子力発電（環境@エネルギー）